

銀河通信 36 年間の歩み

ホームページでは 2004 年 9 月発行の 129 号から掲載しています。
129 号以降のお伝えしたい号のトピックを参考にしてご覧ください。

- 129 号** 知里幸恵記念館設立に向けて、毎年、さまざまな分野で活躍している方をお迎えしてお話を聞きました。世界的なフォトジャーナリスト吉田ルイ子さんをお招きしました。
(故人になられました) (04.9)
- 140 号** (06.9 月) 銀河通信が 18 周年を迎えました
- 141 号** (06.7 月) 2013 年に亡くなった泉かおりさんは脱原発運動の闘士でした。
アフリカジンバブエでエイズ孤児と未亡人の支援活動をされていたことを知る人は少ないと思います。当時の泉さんに取材させていただきました。
(2006 年 9 月 21 日北海道民医連新聞)
- 143 号** からカラー印刷になりました。(07.1 月)
- 146 号** 若松みき江さんから命からがら満州から引き揚げてきた体験を聞きました。
若松さんの「約束の夏」という小説にはみき江さんの体験が投影されています。
(07.8 月)
- 148 号** 2007 年 11 月に同じ山岳会の仲間 4 人を雪崩事故で失いました。この記事をだすことにためらいがありました。この号には雪崩講習会に参加したことも書かれています。(07.12 月)
- 150 号** ヒマラヤ環境調査トレッキングの報告。自宅を 3 週間も留守にして初めての海外登山でした。(08.5 月)
- 153 号** たくさんの山に登ったことや雪崩講習を受けたことを振り返りました。(08.11 月)
- 158 号** 父が入院した頃のことを書きました。父は通信兵として南方に出兵。病気になって福島県の矢祭町に帰りました。早くに両親を亡くし、周りの目も冷たかったようで北海道に渡り、道庁で国家公務員試験を受け合格。最初の赴任地が日高の山奥、平取でした。母は農協の出納係として働いていました。
(09.10 月)
- 166 号** 被災地に心を寄せて (11.4 月)
- 169 号** 3.11 の福島原発事故をきっかけに泊原発の廃炉をめざす会が発足。事務局を 2011 年 8 月に引き受け、提訴までの準備に奔走しました。
(11.11 月)
- 174 号** 著書「泊原発の問題は何か」は私たちの教科書です。倫理から活断層原発のコスト等、泊原発の問題点を平易なことばで論じています。
福島の事故や収束していません。福島の子どもたちに思いを馳せてほしいです。(12.11 月)
- 177 号** ついに 25 周年。本の紹介が一番大変ですが、本を買うときに参考になっているよ」とか「どれも読みたいね」と言ってもらえると苦労した甲斐があったと嬉しくなります。(13.6 月)

- 178号** 25周年の特に前半の記事をまとめています。沖縄の戦跡を訪ね、平和の尊さをおかみしました。1990年「基地の中に沖縄があった」のルポで機関紙コンクールで優秀賞を受賞しました。(13.8月)
- 184号** 「ハンセン病回復者と北海道をむすぶ会」のメンバーと5人でアウシュビッツとプラハを訪ねました。収容所に送られたユダヤ人やポーランドの政治犯、精神障害者や、同性愛者、ロマなどへの大量殺りくりに教科書だけでは分からなかつた残虐さに言葉を失いました。その特集号です。脱走した人の身代わりになったコルベ神父の小さな独房も見学。犠牲的行為に感銘を受けました。(14.8月)
- 189号** 夫と息子と3人での旅
夫の春休みに熊野古道を歩き、5月連休は野の花と星見の旅で、旭川の突哨山、名寄天文台で木星や、しし座の二重星アルギエバを観測。オレンジ色の星が二つ輝いていて素敵でした。今思うと、私たちへの最後のプレゼントだったと思えてなりません。(2015.5月9日)
- 190号** 銀河通信が27年に
1面は「環境と脱原発、平和と人権を伝える」です。自分で驚くのはたくさんの集会やシンポジウム、講演に参加し、記事に私がまとめていることです。(15.7月)
- 191号** 「安保法制は戦争への道、声をあげ続けます」
集会やデモを取材して記事にしています。(15.9月)
- 194号** 安保法制が通り、戦争が身近に感じたこと。選挙で野党共闘で是非勝利させたいと書きました。民主主義ってなんだ！？と訴えたSEALDsの奥田愛基さんと殿垣くるみさんがさっぽろ自由学校の記念フォーラムで語りました。テープ起こしをしてまとめました。(16.3月)
- 195号** 水俣病公式確認から60年 特別講演会に参加しての発言要旨をまとめました。慰安婦問題の記事を「捏造」と決めつけられ名誉を傷つけられたとして裁判に踏み切った植村隆さん。その口頭弁論の様子を新聞記者の長谷川綾さんがまとめました。
- 196号** 「いつも権力の反対側にいたい」が信念だった永六輔さんが亡くなりました。銀河通信は28年になりました。
「吉岡しげみ弾き語りコンサート」の実行委員長を務めました。詩の深さと曲の素晴らしさに魅了されました。六花亭「ふきのとうホール」で180人がコンサートを楽しみ大成功を収めました。(16.7月)
- 197号** 植村隆さん応援 スピーキングツアーが全国に支援の輪を広げました。九州講演に同行し記事をまとめました。
念願だった水俣にも行きました。(16.9月)
- 199号** 200号まであと一歩 (17.1月) 夫がオリオン座の写真を撮りました。(17.3月)
- 200号** 環境と平和を伝えて200号、通過！
200号までを紙面で紹介しました。
沖縄と札幌をつなぐ2,200キロの距離を縮めた植村さんの講演活動

を同行取材しました講演会ツアーに同行したのは会の事務局長の七尾寿子さんです。「語る集いに寄せて」というタイトルで私の拙文が琉球新報に掲載されました。(17.3月)

- 201号** 2017年5月23日に「共謀罪」衆議院で通過しました。特定秘密保護法とセットになったらどんなことになるのでしょうか？自由に物が言えない時代にさせてはならないと思います。(17.5月)
- 203号** 世界遺産のカナディアン・ロッキーを歩きました。(17.9月)
- 206号** 石牟礼道子さんが2018年2月10日に亡くなりました。石牟礼さんの「苦海浄土」は私の生き方を変えた本でした。それは公害をなくす仕事に就くことでした。(18.3月)
- 207号** 東京での「石牟礼道子さんを送る会」に行きました。ノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーンの国際運営委員の川崎哲(あきら)さんの講演を聞きました。(18.5月)
- 208号** 小さな声を届けて30周年 読者を代表して16人がご寄稿してくださいました。松浦幸子さん、小野有五さん、今泉みね子さん、寺島一男さん、水野スウさん、梅沢俊さん、野村保子さん、中村由紀男さん、阿部一子さん、太田朋子さん、有田美江さん、宮本紀子さん、安川誠二さん、さかい廣さん、高橋雋さん、の文をお読みください。(18.7月)
- 209号** 北海道胆振東部地震とブラックアウトの体験を書きました。泊原発を廃炉にする会の裁判で原告の一人として意見陳述しました。全文を掲載しました(18.9月)
- 210号** 210号まで郵送読者、年間1,000円の購読料で頑張ってきました、その最後の号です。夫が気力を振り絞って天文台の設計の1部を図面を引いてドームはグラスファイバー製を本州に注文して、2018年10月末に完成しました。北海道でブラックアウトを体験し「週刊金曜日」同年の11月30日号の論争欄に「ブラックアウトから考える電力のこれから」を寄稿しました。機会があったらご覧ください。(18.11月号)
- 211号** 「民主主義を取り戻す年に」2018年12月、政府は沖縄の辺野古に新基地を造るため民意を無視して、埋め立ての土砂を投入しました。県民投票が行なわれるまで埋め立て工事を止めるよう求めるホワイトハウスへの請願証明が20万筆を越えました。私も署名しました。(19.1月)
- 219号** 33年目の「銀河通信」がここから始まります (20.7月)
- 224号** 小さいのち輝く、野の花に励まされて (21.5月)
- 225号** 平和・人権。環境を伝えて33周年 (21.7月)
- 229号** スプリングエフェメラルから初夏へ (22.6月)
- 234号** 春らんまんの野の花を楽しみました (23.5月)
- 235号** 2022年5月に夫は退院し、1年間家族と暮らすことができました。2023年5月20日に35周年を祝う会を実行委員が中心になり開いていただきました。(23.7月)
- 2021年** 夫の大手術を控え、本当は銀河通信の編集どころではありませんでした。野の花にどんなに励まされたか知れません。

237号 2023年11月10日に母が97歳で老衰で亡くなりました。身内だけの小さな葬儀を終えて、12月1日午前4時、夫が呼吸不全で病院で亡くなりました。通夜は12月3日だったので写真を探して夫の足跡を写真で編集したのが8pです。
小野幌教会で松村神父様のお祈りと参列されたみなさまと天国に見送りました。